

## 第14回

## プロダクトデザイン

～生活に生かされるデザイン～

美術教育監修・執筆

上野行一

私たちの生活はデザインされた製品で満ちあふれている。それらの品々はどのようにしてデザインされているのだろうか。今回はプロダクトデザインについて、私たちの生活とデザインとのかかわり、機能や見た目とデザインのあり方について学ぶ。

学習前  
チェック!

私たちの生活に深く結びついているプロダクトデザイン。身の回りの製品のデザインに目を向け、形態や色彩の工夫だけでなく、製品を生み出したコンセプトやデザインの暮らしへの影響力について考えてみよう。

## 身近にあるデザイン

目覚まし時計、歯ブラシ、食器、椅子、カバン…朝起きてから夜眠るまで、私たちが日常生活するうえで使うもの、手に取るものはすべて創意工夫されデザインされている。ひとくちにプロダクトデザインといっても、文房具や装身具などの小物類や趣味・健康用品、生活雑貨や日用品からキッチン用品や生活家電、さらには家具、住宅設備、医療機器に至るまでさまざまな分野がある。暮らしに利便性や快適さ、豊かさを提供するプロダクトデザインは、私たちの生活のすべてに影響をもっている。

## プロダクトデザインとは

そもそもデザインとは何だろう。20世紀初頭、デザインという言葉が一般的に使われ始めて以来約100年の間に、デザインが適用される範囲は拡張し、その意味も変化してきた。変わらないのはデザインの中心には人の暮らしがあるということだ。

(公財)日本デザイン振興会は「常にヒトを中心に考え、目的を見出し、その目的を達成する計画を行い実現化する」この一連のプロセスがデザインであると定義している。さまざまな物がデザインされる背後にはこのような思想があるのだ。

## 機能と見た目

プロダクトデザインというと、製品の形態や色彩の工夫をイメージしがちかもしれないが、その中心に人の暮らしを据え、そして人の生活を真に豊かにすることを考えることがもっとも大切だ。



例えば、番組で紹介する子ども向けテープホルダーのデザインでは、どんなテープホルダーが、使い手である子どもの生活にどのような豊かさをもたらすことができるのか、という思考が最も大切であり目的となるという。どんな形にするとかわいいだろうかと考えたり、配色の工夫をしたりすること、機能を改善することなどはその目的を実現するための手段である。新しい体験を人々に提供し、生活を豊かにすることがプロダクトデザインの根本にある。



このマークが付いている製品が身近にないだろうか。これはGマークといって、グッドデザイン賞を受賞した製品に付けることが認められているマークだ。プロダクトデザインのすべてがこの賞の対象になる。グッドデザイン賞は単に美しさを競うものではなく、私たちの生活をより豊かにするデザインに与えられる。 (経済産業省ホームページより)

